

学校評価シート（自己評価）令和 7 年（2025 年度）

越生みどり幼稚園

1、園の教育目標

【幼稚園教育目標】「JOY HOPE LOVE」 喜びと希望と愛をもって育つ子

○ げんきな子 《健康な心と体》

* 幼稚園を楽しむ(すみれ) 楽しんで遊ぶ(ゆり) 楽しんでいっしょに遊ぶ(きく)

・ 進んで遊びや運動を楽しむ ・ 遊びを通して豊かな感性や表現を身に着ける。

○ 考える子《学びに向かう力》

* 心動かす体験をする(すみれ) 自分でやりたいことが生まれる(ゆり)

最後までやり遂げる力を持つ(きく)

・ 自分の力で考えて行動する ・ みんなで決めた約束を守る ・ 目を見てお話を聞く

○ なかよくできる子 《協同性》

* お友だちに気づく(すみれ) お友だちに気づいて気持ちを伝える(ゆり)

お友だちの気持ちを受け止め思いを伝え合う(きく)

・ 友達といっしょに遊ぶ ・ 相手を思いやる ・ 自然の中で動植物に親しみをもって大切にする

2、具体的な目標や計画

- ・ 子どもたちの生き生きとした活動を援助するため、チーム保育(様々な関わり)を実践し、保育者も園児も、共に生き生きと生きる幼稚園を目指す。
- ・ 日常的に園の周りの環境を生かした山保育を行い、体幹を鍛え、心も体も健康に育てる。
- ・ 子どもたちの自主自立を重んじ、教諭が教え込む保育ではなく、こどもと共に話し合い作り出す保育を目指す
- ・ 同じように教諭同士も、毎日、保育について語り合う時間を持つ。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
2 歳児から 3 歳児への切れ目のない対応(幼稚園 接続保育)を推進する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ うさぎ組が 10 年を迎えたことと保護者からの要望があったため、R7 年度から「まいにちうさぎ」を始めた。 ・ 「子ども誰でも通園制度」を受け、どのようにしたら当園らしいやりかたができるかを考えていたが、越生町子育て支援課からの提案により、うさぎ組が誰でも通園制度に当てはまることとなった。これにより幼稚園が 2 歳児を受け入れることによって誰でも通園制度が R8 から開始となった。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育利用者の数の増大に対応するため、担当を一人ではなく常に 2 人とする。また、満3歳児から預かりを利用できるように制度を作った。 このことにより今後も、働いていて下の子を預けたい保護者の助けとなるようにしていきたい。
教諭のためのノンコンタクトタイムを作っていく。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前理事長と相談し 3 学期終了式後の 20～24 日日をノンコンタクトタイム(指導要録作成のための時間)とすることとなった。また、そのように行うことができた。 ・ 新しい試みだが、日本の教育職は一日のうちにほっとする時間がとれないことが多いし、昼食時も子どもと一緒に、休憩の時間もなく一日働き続けている。 ・ 今後、教諭の働き方改革や、休憩の取り方なども考えていきたい。来年度もチーム保育の中で、交代しながら少しでも休憩がとれるように工夫していきたい。
幼稚園を積極的に開放する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで園庭開放は月に 2 回の決まった日だけで、その日に都合が悪かったり、体調を崩したりすると、行けないので残念、という保護者の声を受け、幼稚園がもっとできることがあるのではと考えた。 ・ そして、いつでも来て、ゆっくりできるスペースづくりを考えたいと思い、R6 年度から新たに幼稚園に来て自由に遊べる「グリーンリボン」という新しい子育て支援を始めた。この活動が浸透し、幼稚園が開かれた子育ての場所となるようにしたい。 ・ まいにちうさぎとのバランスを考え、グリーンリボンさんの居場所づくりを考え、ちょうど壊れかけて危険がある室内用滑り台を新しくした。 ・ 幼稚園を使ってマルシェを行いたいという卒園児の保護者からの申し出を受け、町の活性化と、親子支援のために、幼稚園の開放を行った。

4, 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設型給付の幼稚園に移行して町の支援を受けることができ安心して保育を行うことができている。

	<ul style="list-style-type: none"> 多くの保護者支援の活動が上手に機能し、幼稚園がこれからも子どもと親のためのスペースであることをアピールしていきたい。 職員間では、こまめにミーティングを行い、チームとして声を掛け合って保育にのぞんだ。これからもよく話し合い一緒に働く同僚として、よい職場づくりをしていきたい。
--	--

○結果(※)について

A	十分達成されている
Ⓑ	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
2歳児から3歳児への切れ目のない対応(幼稚園接続保育)を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 「子ども誰でも通園制度」を受け、どのようにしたら当園らしいやりかたができるかを考えていく。幼稚園独自のやり方を模索したい。(制度を作っておいて柔軟に対応する。) 預かり保育利用者の数の増大に対応するため、担当を一人ではなく常に2人とする。また、2歳児から預かりを利用できるように制度を作る。 対象は2歳からの幼稚園児の下の子及びひよこ、うさぎ参加者から始める。このことにより下の子を預けたい保護者の助けとなるようにしていきたい。 うさぎ組が10年を迎えたことをうけ、R7年度から「まいにちうさぎ」を始める。
子どもの減少に伴う幼稚園経営を考える	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は、3歳児が6名という今までにない入園者数である。 今後も人口が増えることは考えられないため、幼稚園の経営をどのようにしていくかが問われるときとなっている。 職員数の見直しや、消耗品の節約なども視野に考えていきたい。
幼稚園を積極的に開放する。	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園では、遊び場の少ない未満児さんとお母様のために、新たに「グリーンリボン」という新しい子育て支援を始めた。 この活動が浸透し、幼稚園が開かれた子育ての場所となるようにしたい。 幼稚園を使ってマルシェを行いたいという卒園児の保護者からの申し出を受け、町の活性化と、親子支援のために、幼稚園の開放を行った。 休日のことであるので、職員が出勤することになりそのことがネックとなっている。

学校評価シート（学校関係者評価）

幼稚園 学校関係者評価委員会

日時 令和 8年 4月 9日(木)

出席者 評価委員 4人

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

- ・ 具体的でわかりやすい内容に設定されており、適切である。
- ・ 子どもたちの目線で教育目標が定められていて、それに沿ったあ地dぴが計画されていると思う。また教諭のための職場環境もよりよくなるように考えられていて、とても良いと思う。
- ・ それぞれの学年で目標が明確に設定されていた。
- ・ 幼稚園の周りの環境を生かす保育が行われている。

2. 評価結果の内容は適切であったか

- ・ 今までの課題から、新たな支援を進めている故と、これからの課題は難しい面があることを踏まえた評価ができており、適切である。
- ・ 目標や計画に対して、取り組みの成果が出ているものがあるので、ワンランク上の評価結果にしてもよい項目が複数あった。もっと自信をもって評価してもよいと思う。
- ・ 職員同士の話し合いを通して、同じ目標をもって運営をされているのが分かるので適切である。
- ・ うさぎ組が「子ども誰でも通園制度」適応されることはよかった。
グリーンリボン、園庭開放は安心して遊べる場を提供できた
- ・ ノンコンタクトタイム、休憩については工夫改善されていくと思う。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

- ・ 適切に設定されている。
- ・ 今後の子どもの減少、保護者からの要望、現状をこの先の課題にあげ、将来を見据えた安定した幼稚園運営を目指しているのが分かり適切である。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

- ・ 具体的な取り組み方向も示され、適切に行われている
- ・ 子ども全般に心を寄せていろいろな活動を考えていることが素晴らしいと思うので適切である。
- ・ 人口、園児数減少の中での経営は厳しいと思うが、大切な子どものため子育て支援を充実させて、親子ともに幸せな居場所になったらいいと思う。